

表10-1. 関西空港における症状別有症件数と無申告件数及びその割合《中南米》

(有症者総数 =83)

	有症件数	症状の割合(%)※	申告件数	無申告件数	無申告の割合(%)
1. 下痢	52	62.7	46	6	11.5
2. 腹痛	22	26.5	22	0	0.0
3. おう吐	17	20.5	16	1	5.9
4. 発熱	13	15.7	12	1	7.7
5. 頭痛	16	19.3	13	3	18.8
6. のどの痛み	16	19.3	10	6	37.5
7. 発疹	1	1.2	1	0	0.0
8. 黄疸	1	1.2	1	0	0.0
9. 激しい咳	3	3.6	3	0	0.0
10. 呼吸困難	3	3.6	3	0	0.0
11. 異常な出血	0	0.0	0	0	0.0
12. けいれん	1	1.2	1	0	0.0
13. その他	3	3.6	3	0	0.0
合計	148	178.3	131	17	11.5

※有症件数／有症者総数×100

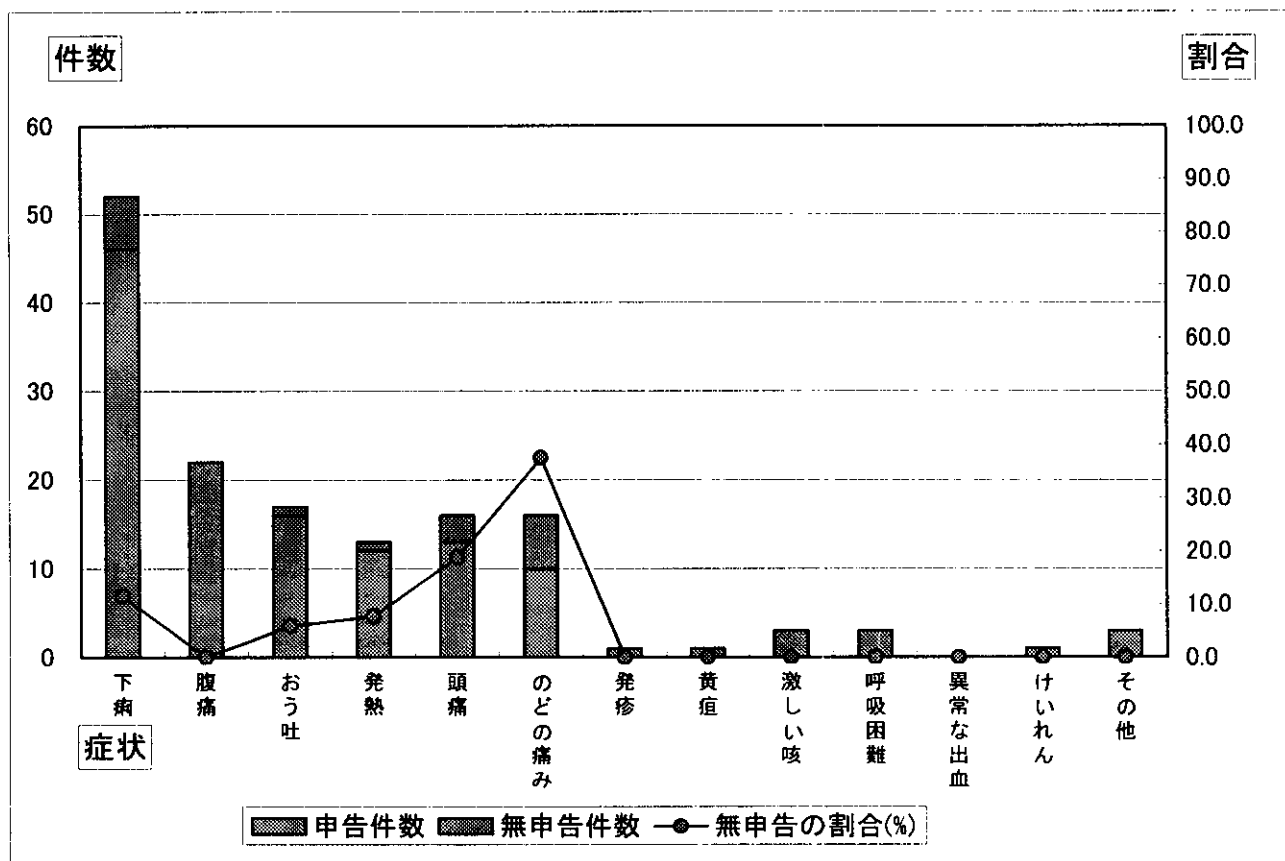


図6-1. 関西空港における症状別有症件数と無申告件数及びその割合《中南米》

表10-m. 関西空港における症状別有症件数と無申告件数及びその割合《その他の国》

(有症者総数 = 485)

	有症件数	症状の割合(%)*	申告件数	無申告件数	無申告の割合(%)
1. 下痢	189	39.0	159	30	16.0
2. 腹痛	122	25.2	107	15	12.0
3. おう吐	54	11.1	51	3	6.0
4. 発熱	101	20.8	91	10	10.0
5. 頭痛	101	20.8	65	36	36.0
6. のどの痛み	174	35.9	121	53	30.0
7. 発疹	14	2.9	11	3	21.0
8. 黄疸	0	0.0	0	0	0.0
9. 激しい咳	31	6.4	24	7	23.0
10. 呼吸困難	2	0.4	1	1	50.0
11. 異常な出血	9	1.9	8	1	11.0
12. けいれん	1	0.2	1	0	0.0
13. その他	24	4.9	21	3	13.0
合計	822	169.5	660	162	20.0

*有症件数 / 有症者総数 × 100

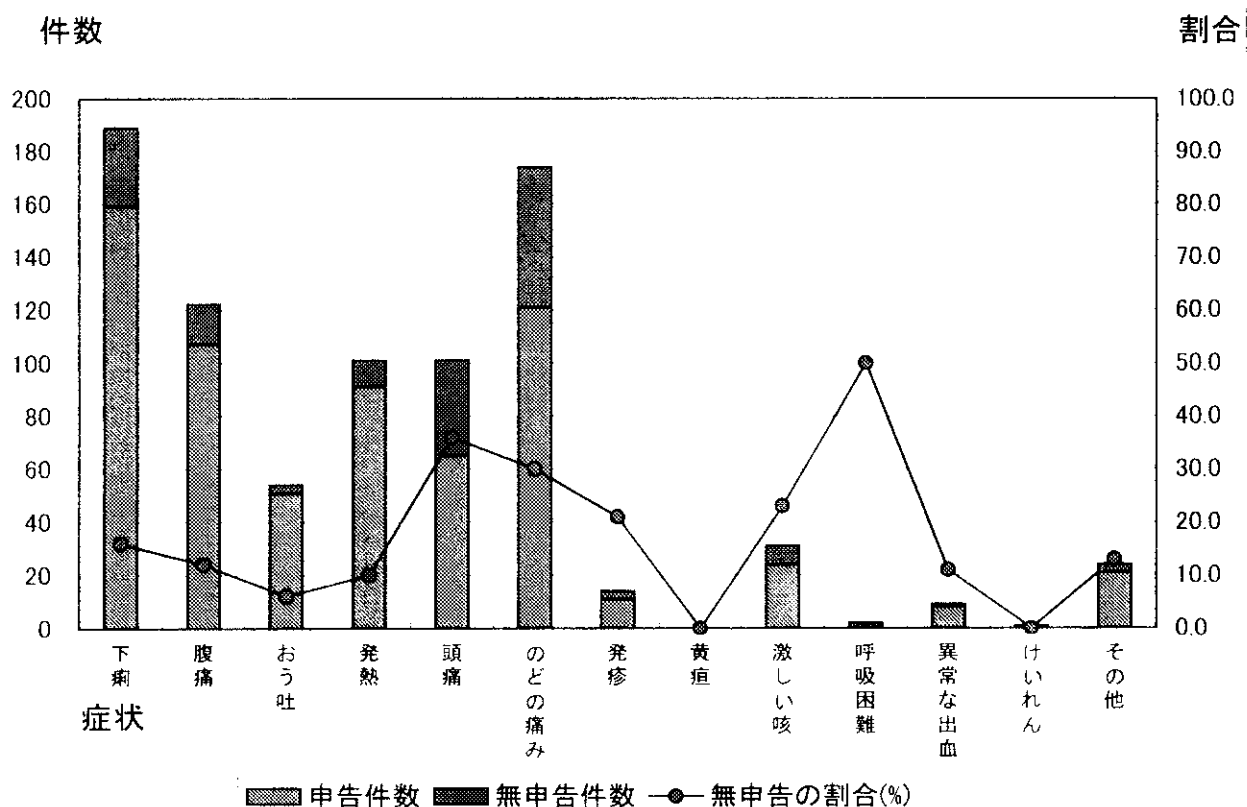


図6-m. 関西空港における症状別有症件数と無申告件数及びその割合《その他の国》

表11. 外国人乗客の有症者数と無申告有症者数

	有症者数	有症者総数に 占める割合(%)	無申告 有症者数	無申告割合% (対有症者数)
関西空港	240	3.3	169	70.4
成田空港	740	5.3	632	85.4
全体合計	980	4.6	801	81.7

表12-1. 外国人の年齢階級別・性別有症者数と無申告者数及びその割合

	a. 全体				b. 男性				c. 女性			
	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%
不明	36	6	30	83.3	20	2	18	90.0	16	4	12	75
1. 10歳以下	44	3	41	93.2	22	3	19	86.4	22	0	22	100
2. 10歳代	50	7	43	86.0	14	3	11	78.6	36	4	32	88.9
3. 20歳代	388	80	308	79.4	108	26	82	75.9	280	54	226	80.7
4. 30歳代	295	50	245	83.1	131	26	105	80.2	164	24	140	85.4
5. 40歳代	104	21	83	79.8	62	18	44	71.0	42	3	39	92.9
6. 50歳代	40	8	32	80.0	26	5	21	80.8	14	3	11	78.6
7. 60歳代	13	3	10	76.9	8	1	7	87.5	5	2	3	60
8. 70歳以上	5	0	5	100.0	3	0	3	100.0	2	0	2	100
合計	975	178	797	81.7	394	84	310	78.7	581	94	487	83.8

注:性別不明の5名の外国人はこの成績に含まれていない。

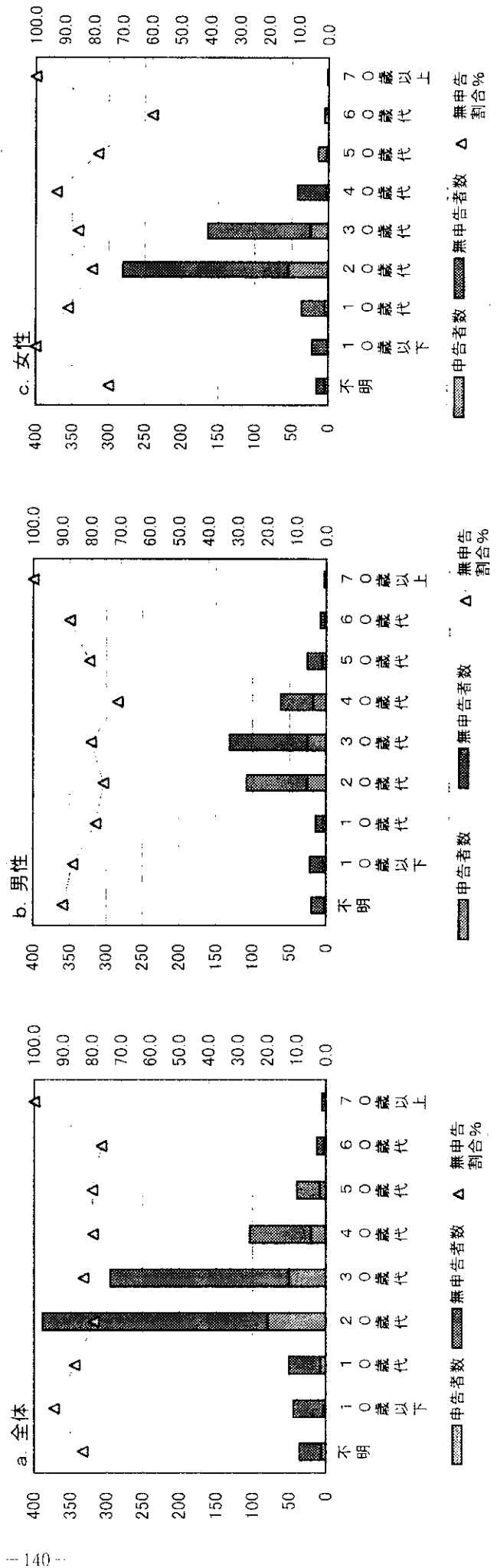


図7-1. 外国人の年齢階級別・性別有症者数と無申告者数及びその割合

表12-2. 成田空港における外国人の年齢階級別・性別有症者数と無申告者数及びその割合

	a. 全体				b. 男性				c. 女性			
	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%
不明	27	2	25	92.6	15	1	14	93.3	12	1	11	91.7
1. 10歳以下	36	1	35	97.2	18	1	17	94.4	18	0	18	100.0
2. 10歳代	31	3	28	90.3	10	2	8	80.0	21	1	20	95.2
3. 20歳代	277	48	229	82.7	70	13	57	81.4	207	35	172	83.1
4. 30歳代	237	30	207	87.3	105	19	86	81.9	132	11	121	91.7
5. 40歳代	83	16	67	80.7	51	14	37	72.5	32	2	30	93.8
6. 50歳代	30	5	25	83.3	17	2	15	88.2	13	3	10	76.9
7. 60歳代	9	2	7	77.8	6	1	5	83.3	3	1	2	66.7
8. 70歳以上	5	0	5	100.0	3	0	3	100.0	2	0	2	100.0
合計	735	107	628	85.4	295	53	242	82.0	440	54	386	87.7

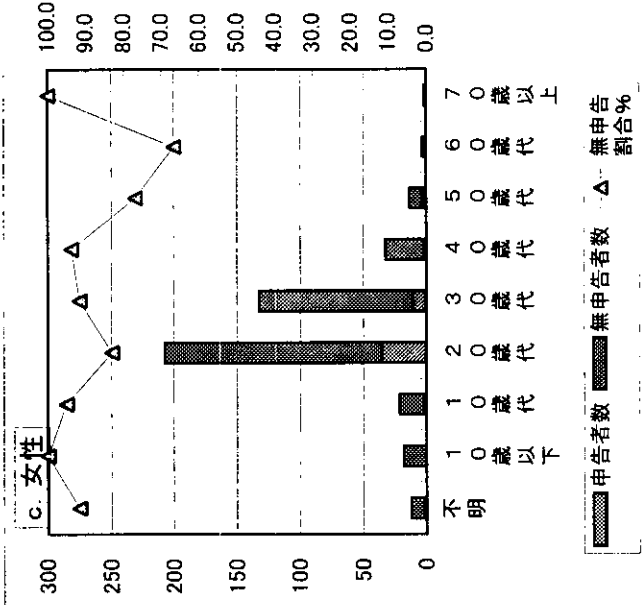
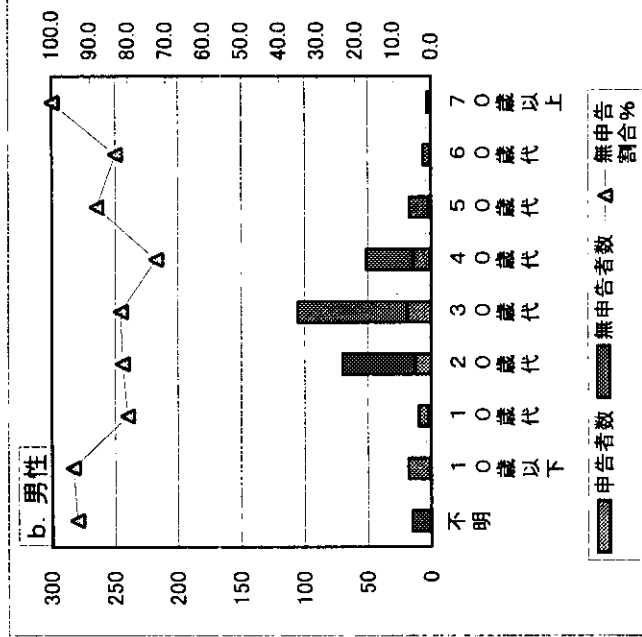
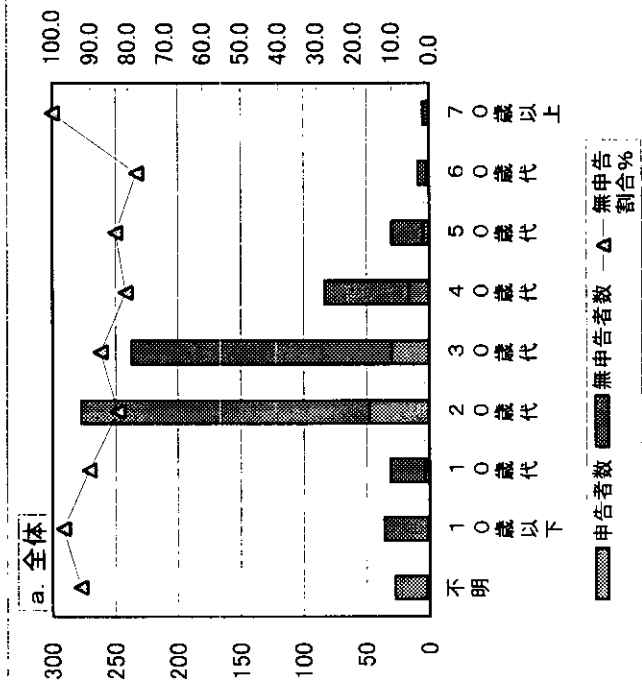


図7-2. 成田空港における外国人の年齢階級別・性別有症者数と無申告者数及びその割合

表12-3. 関西空港における年齢階級別・性別有症者数と無申告者数及びその割合

	a. 全体				b. 男性				c. 女性			
	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告割合%
不明	9	4	5	55.6	5	1	4	80.0	4	3	1	25.0
1. 10歳以下	8	2	6	75.0	4	2	2	50.0	4	0	4	0.0
2. 10歳代	19	4	15	78.9	4	1	3	75.0	15	3	12	80.0
3. 20歳代	111	32	79	71.2	38	13	25	65.8	73	19	54	74.0
4. 30歳代	58	20	38	65.5	26	7	19	73.1	32	13	19	59.4
5. 40歳代	21	5	16	76.2	11	4	7	63.6	10	1	9	90.0
6. 50歳代	10	3	7	70.0	9	3	6	66.7	1	0	1	100.0
7. 60歳代	4	1	3	75.0	2	0	2	100.0	2	1	1	50.0
8. 70歳以上	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合計	240	71	169	70.4	99	31	68	68.7	141	40	101	71.6

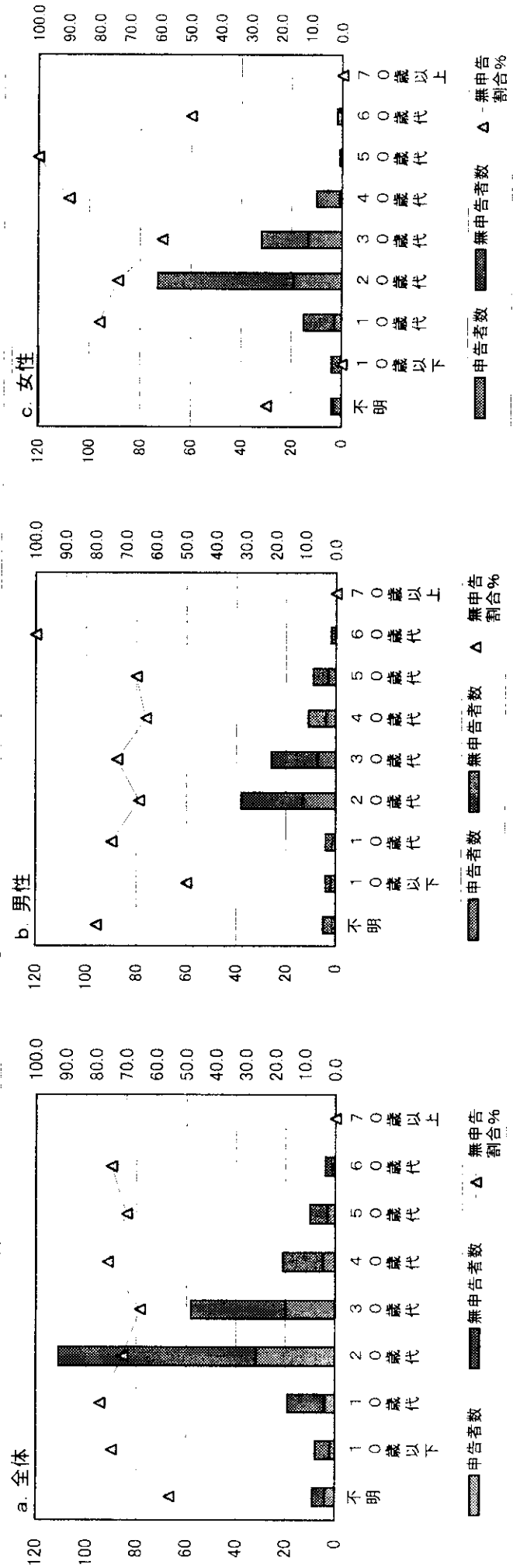


図7-3. 関西空港における年齢階級別・性別有症者数と無申告者数及びその割合

表13-1. 外国人の症状別有症件数と無申告件数及びその割合 (外国人有症者数=980)

	有症件数	症状の割合※	申告件数	無申告件数	無申告の割合(%)
1. 下痢	197	20.1	59	138	70.1
2. 腹痛	71	7.2	28	43	60.6
3. おう吐	67	6.8	27	40	59.7
4. 発熱	117	11.9	33	84	71.8
5. 頭痛	375	38.3	62	313	83.5
6. のどの痛み	326	33.3	50	276	84.7
7. 発疹	29	3.0	10	19	65.5
8. 黄疸	2	0.2	2	0	0.0
9. 激しい咳	112	11.4	14	98	87.5
10. 呼吸困難	5	0.5	2	3	60.0
11. 異常な出血	7	0.7	3	4	57.1
12. けいれん	7	0.7	2	5	71.4
13. その他	64	6.5	15	49	76.6
合計	1,379	140.7	307	1,072	77.7

※外国人有症件数／外国人有症者数×100

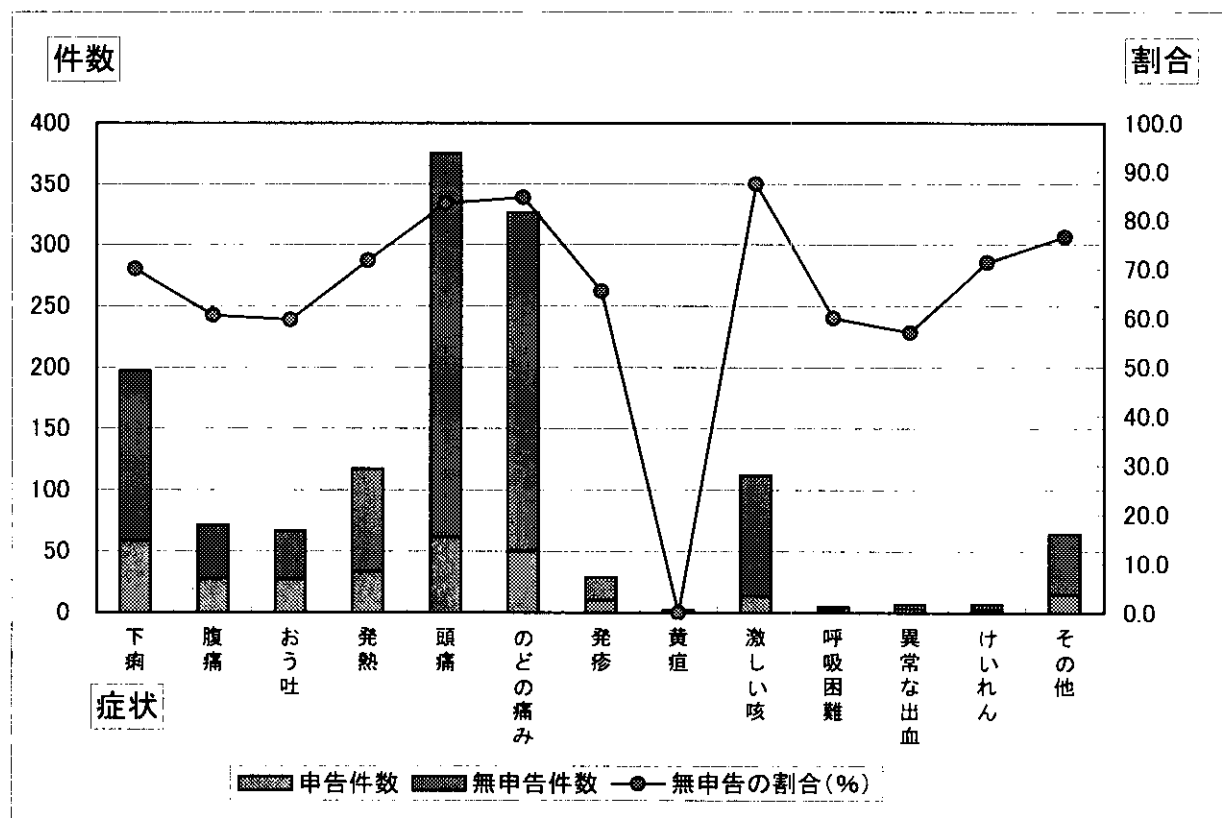


図8-1. 外国人の症状別有症件数と無申告件数及びその割合

表13-2.成田空港における外国人の症状別有症件数と無申告件数及びその割合(有症者数=740)

		有症件数	症状の割合※	申告件数	無申告件数	無申告の割合(%)
1.	下痢	143	19.3	33	110	76.9
2.	腹痛	49	6.6	15	34	69.4
3.	おう吐	49	6.6	16	33	67.3
4.	発熱	79	10.7	19	60	75.9
5.	頭痛	279	37.7	33	246	88.2
6.	のどの痛み	251	33.9	35	216	86.1
7.	発疹	23	3.1	5	18	78.3
8.	黄疸	1	0.1	1	0	0.0
9.	激しい咳	84	11.4	7	77	91.7
10.	呼吸困難	4	0.5	1	3	75.0
11.	異常な出血	7	0.9	3	4	57.1
12.	けいれん	4	0.5	1	3	75.0
13.	その他	49	6.6	9	40	81.6
	合計	1,022	138.1	178	844	82.6

※有症件数／有症者数×100

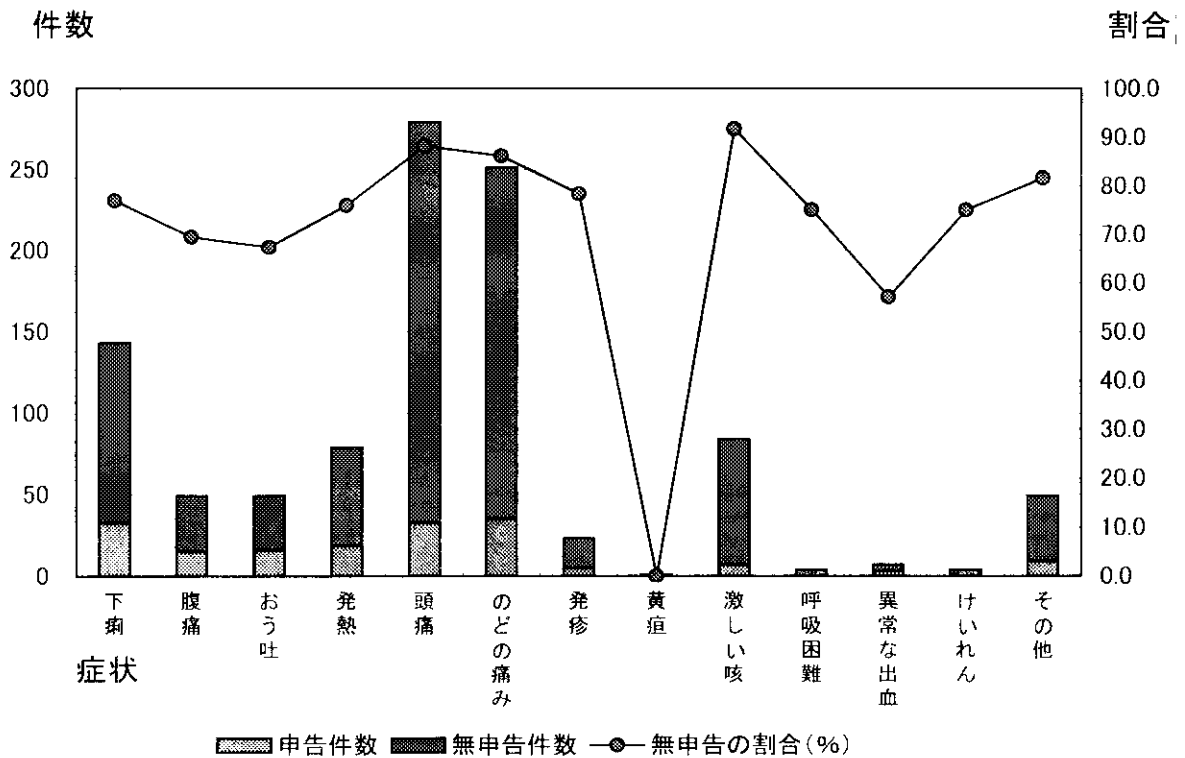


図8-2. 成田空港における外国人の症状別有症件数と無申告件数及びその割合

表13-3. 関西空港における外国人の症状別有症件数と無申告件数及びその割合(有症者数=240)

		有症件数	症状の割合※	申告件数	無申告件数	無申告の割合(%)
1.	下痢	54	22.5	26	28	51.9
2.	腹痛	22	9.2	13	9	40.9
3.	おう吐	18	7.5	11	7	38.9
4.	発熱	38	15.8	14	24	63.2
5.	頭痛	96	40.0	29	67	69.8
6.	のどの痛み	75	31.3	15	60	80
7.	発疹	6	2.5	5	1	16.7
8.	黄疸	1	0.4	1	0	0
9.	激しい咳	28	11.7	7	21	75
10.	呼吸困難	1	0.4	1	0	0.0
11.	異常な出血	0	0.0	0	0	0.0
12.	けいれん	3	1.3	1	2	66.7
13.	その他	15	6.3	6	9	60
合計		357	148.8	129	228	63.9

※有症件数／有症者数×100

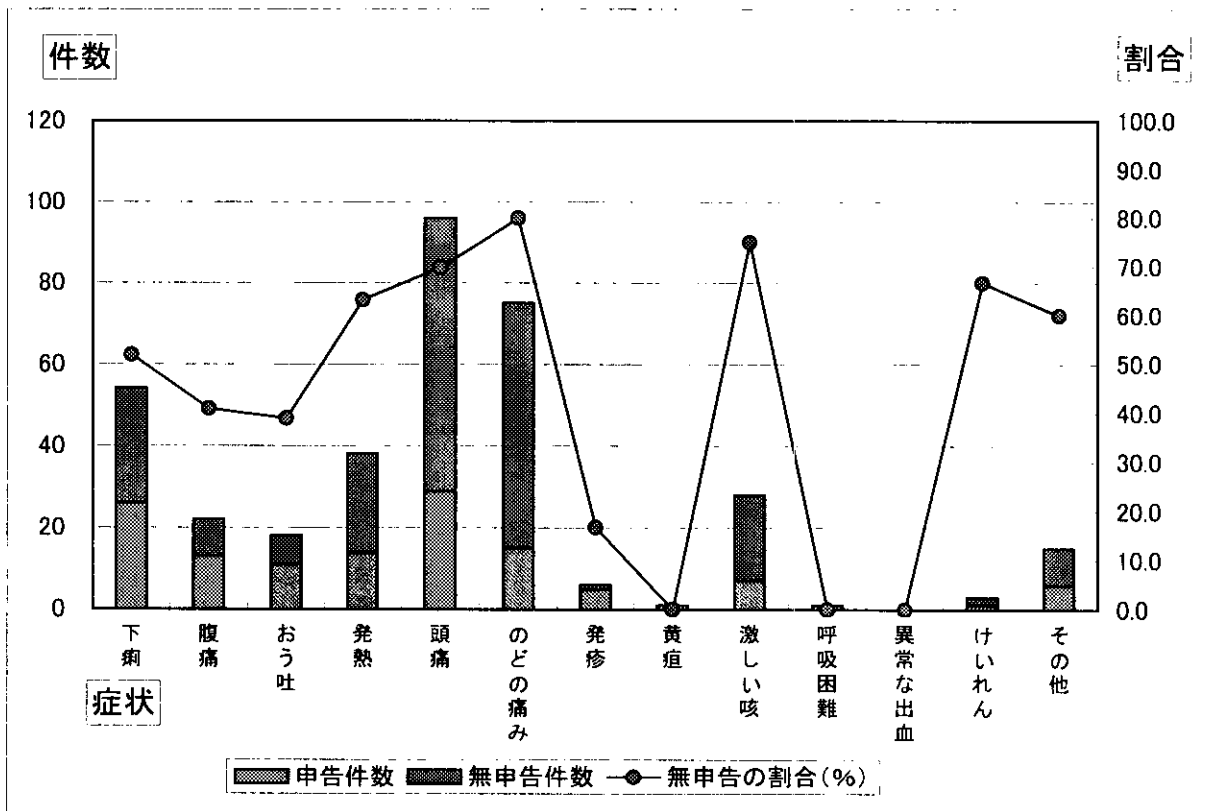


図8-3. 関西空港における外国人の症状別有症件数と無申告件数及びその割合

表14-1. 外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合(その1)

	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告の割合(%)
1. 香港	97	10	87	89.7
2. シンガポール	121	15	106	87.6
3. タイ	149	33	116	77.9
4. インド	42	13	29	69.0
5. ネパール	9	1	8	88.9
6. インドネシア	61	10	51	83.6
7. ベトナム	30	10	20	66.7
8. カンボジア	9	2	7	77.8
9. フィリピン	344	40	304	88.4
10. アジアその他	135	36	99	73.3
11. アフリカ	12	4	8	66.7
12. 中南米	43	10	33	76.7
13. その他	103	28	75	72.8
合計	1,155	212	943	81.6

注: 複数の国を旅行した場合もあり、従ってそれぞれの項目の人数はすべて延べ数となる。

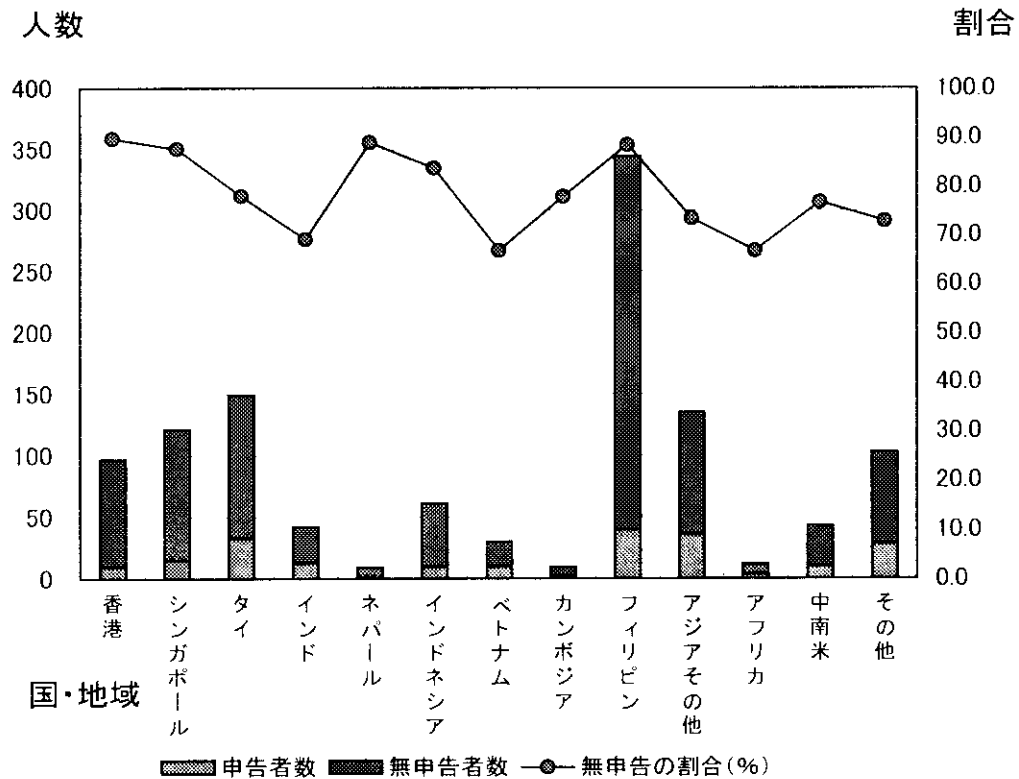


図9-1. 外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合(その1)

表14-2. 成田空港における外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合

	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告の割合(%)
1. 香港	83	9	74	89.2
2. シンガポール	95	12	83	87.4
3. タイ	117	20	97	82.9
4. インド	30	8	22	73.3
5. ネパール	6	1	5	83.3
6. インドネシア	48	8	40	83.3
7. ベトナム	5	1	4	80.0
8. カンボジア	5	1	4	80.0
9. フィリピン	280	27	253	90.4
10. アジアその他	96	18	78	81.3
11. アフリカ	10	4	6	60.0
12. 中南米	40	9	31	77.5
13. その他	76	12	64	84.2
合計	891	130	761	85.4

注: 複数の国を旅行した場合もあり、従ってそれぞれの項目の人数はすべて延べ数となる。

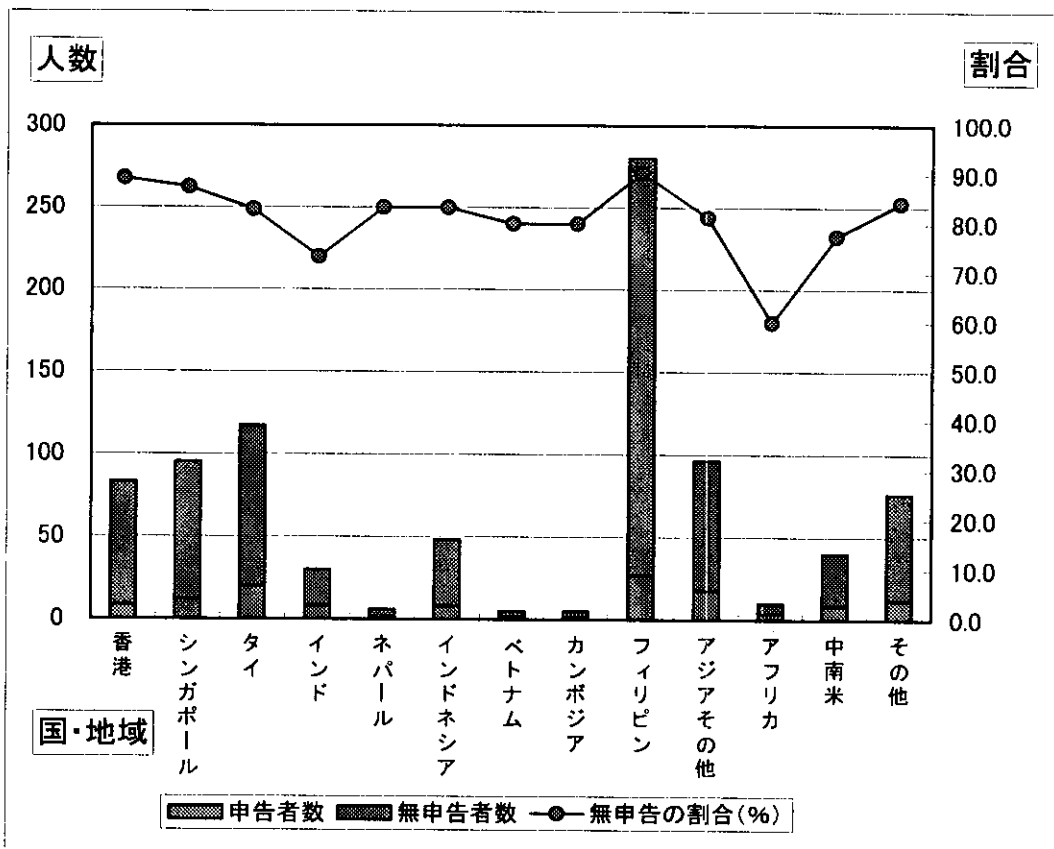


図9-2. 成田空港における外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合

表14-3. 関西空港における外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合

	有症者数	申告者数	無申告者数	無申告の割合(%)
1. 香港	14	1	13	92.9
2. シンガポール	26	3	23	88.5
3. タイ	32	13	19	59.4
4. インド	12	5	7	58.3
5. ネパール	3	0	3	100.0
6. インドネシア	13	2	11	84.6
7. ベトナム	25	9	16	64.0
8. カンボジア	4	1	3	75.0
9. フィリピン	64	13	51	79.7
10. アジアその他	39	18	21	53.8
11. アフリカ	2	0	2	100.0
12. 中南米	3	1	2	66.7
13. その他	27	16	11	40.7
合計	264	82	182	68.9

注:複数の国を旅行した場合もあり、従ってそれぞれの項目の人数はすべて延べ数となる。

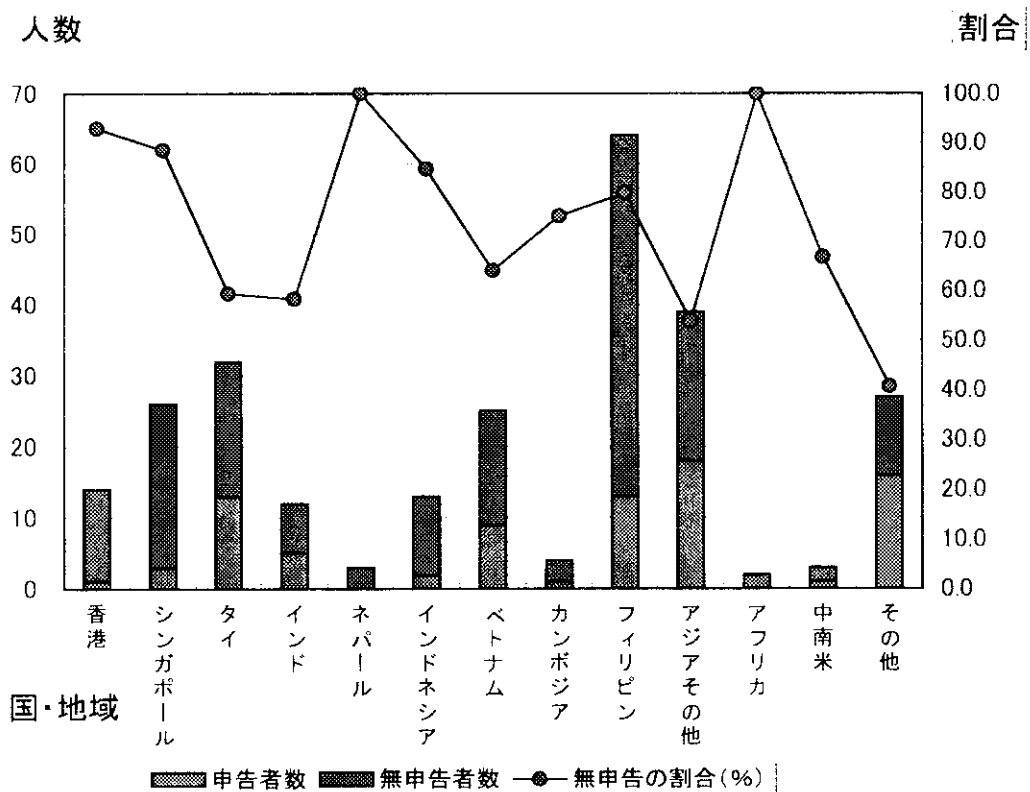


図9-3. 関西空港における外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合

表14-4. 外国人の旅行地別有症者数と無申告者数及びその割合(その2)

	外国人 有症者数	全有症者数	外国人有症 者の割合(%)	外国人 無申告者数	全無申告 有症者数	外国人無申告 者の割合(%)
1. 香港	97	1,360	7.1	87	719	12.1
2. シンガポール	121	2,545	4.8	106	1,183	9.0
3. タイ	149	8,101	1.8	116	3,200	3.6
4. インド	42	2,623	1.6	29	994	2.9
5. ネパール	9	1,038	0.9	8	402	2.0
6. インドネシア	61	3,326	1.8	51	1,374	3.7
7. ベトナム	30	776	3.9	20	282	7.1
8. カンボジア	9	378	2.4	7	174	4.0
9. フィリピン	344	1,284	26.8	304	863	35.2
10. アジアその他	135	3,388	4.0	99	1,513	6.5
11. アフリカ	12	525	2.3	8	174	4.6
12. 中南米	43	322	13.4	33	136	24.3
13. その他	103	1,217	8.5	75	465	16.1
合計	1,155	26,883	4.3	943	11,479	8.2

注: 複数の国を旅行した場合もあり、従ってそれぞれの項目の人数はすべて延べ数となる。

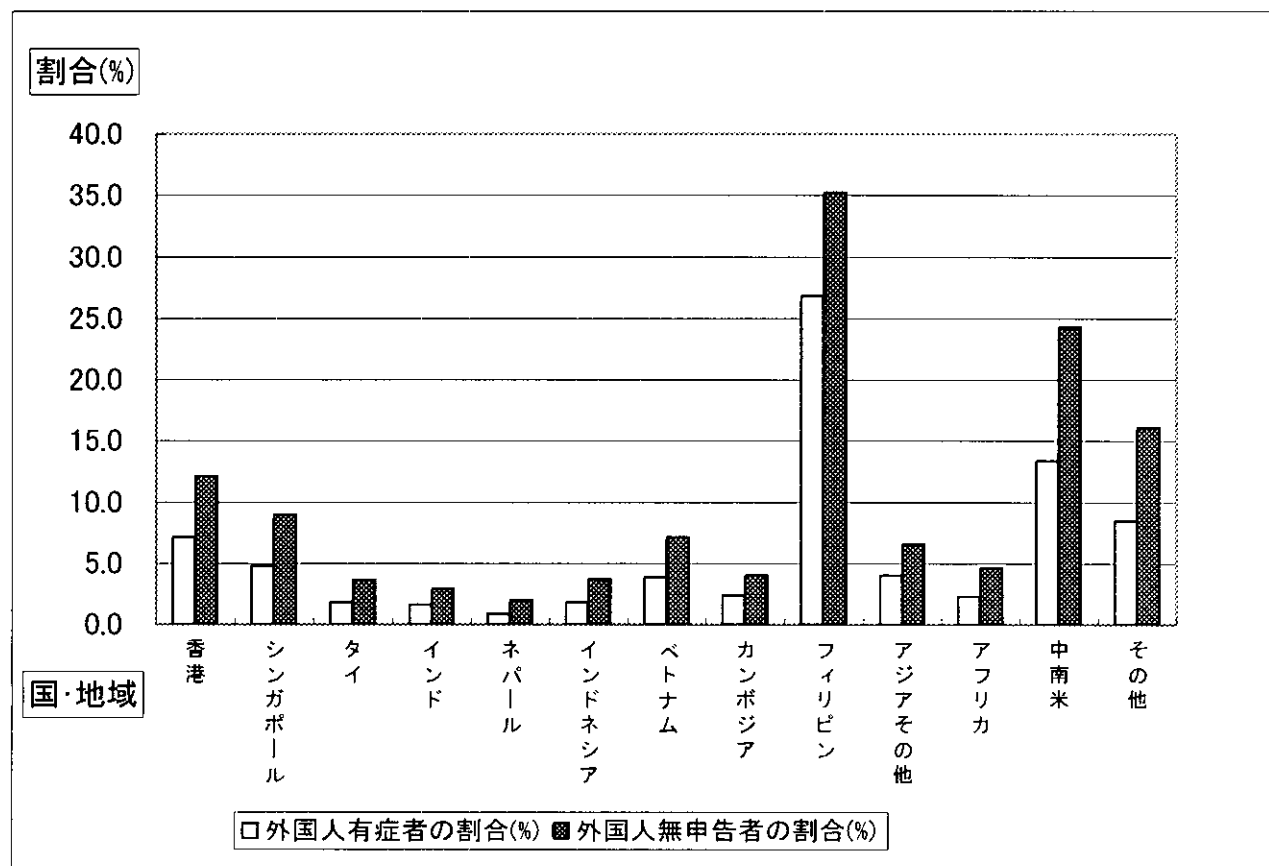


図10. 外国人の旅行地別有症者の割合と無申告者の割合



平成10年度 厚生科学特別研究
『検疫所における総合医学研究』
(主任研究者 小竹久平)

分担研究

国際保健規則（IHR）改正を考慮した
検疫体制に関する調査研究(上)

研 究 報 告 書

平成11年3月

分担研究者

小 竹 久 平

国際保健規則（IHR）改正を考慮した検疫体制に関する調査研究

分担研究者： 小竹 久平 関西空港検疫所長
研究協力者： 矢野 周作 前関西空港検疫所長
宮崎 豊 愛知県衛生研究所所長
大城 等 鳥取大学医学部助教授

目 次

目的	1
方法	1
結果	4
1) 質問票回収数	4
2) コレラ汚染地域、非汚染地域からの航空便による入国者の滞在地域	6
3) 性・年齢階級別有症状者割合	7
4) 航空機の出発地および滞在国別有症状者割合	11
5) 滞在国別症状訴え割合	17
6) 症状の組み合わせによる症候群分類	23
7) 健康相談受診者の検査結果	29
8) 症候群分類と検査結果	33
9) 推定感染国	35
まとめ	36
参考文献	36

目的

人や物資の大型航空機による短時間の大量輸送に伴い、種々の感染症が海外から持ち込まれる可能性と不安が高まっている。感染症の国内への侵入防止策としては、感染症情報の収集・解析、渡航者への情報提供による啓発、検疫業務の充実が必要であり、また侵入後においても国内医療機関等との緊密な連携による感染の拡大防止が必要不可欠である。WHOにおいてもIHRの改正作業が行われ、未知の感染症への対応や、既知ではあるが人類に対して最も危険な早期対応を適切に行うため、症候群別アプローチを採択するなどの方法で検討が進められているところである。

我が国においては、検疫質問票により、入国時から遡って2週間の各種症状の有無を調査することにより、感染症に罹患している可能性のある者のスクリーニングが行われ、成果を上げているが、海外での感染症罹患の危険因子情報に関する情報収集手段としては十分機能しているとは言い難い。このため、平成9年度の「国際保健規則(IHR)改訂案の我が国への適応に関する研究」では、症候群別アプローチによる有症者の把握及び入国後の状況に関し検討がなされ、海外での感染症罹患に関して、性・年齢階級、滞在国別の特徴が示された。今回は、平成9年度厚生科学研究時の検疫質問票を用い、感染症防疫対策に必要な事項を明らかにし、関係者に対する情報提供を行うことを目的として検討を行った。

具体的には、平成9年度の厚生科学研究で実施したフィールドテストで得たデータについて、無症状者の質問票についてもデータベース化と解析を行い、海外での感染症の罹患を疑わせる症状を有する者の割合を推定することを目的に研究を行った。

方法

調査期間

調査期間：平成10年10月1日から平成11年3月31日

質問票回収期間：平成10年2月1日から3月31日

対象者

質問票回収期間中に関西空港から入国した日本国籍を有する者のうち、以下の4集団を対象とした。

1) コレラ汚染地域からの到着便による有症状者

コレラ汚染地域からの到着便で帰国した者について、帰国時からさかのぼって2週間以内に何らかの症状を訴えたすべての者。

2) コレラ汚染地域からの到着便による無症状者

1)と同様の帰国者のうち症状を訴えなかった者のうちから抽出率1%で無作為に抽出された者。

3) コレラ非汚染地域からの到着便による有症状者

コレラ非汚染地域からの航空便のうちからおおむね10%を調査対象便として選定し、その便で帰国した者のうち、何らかの症状を訴えたすべての者。選定されたコレラ非汚染地域からの到着便については、詳細を既に報告している¹⁾。

4) コレラ非汚染地域からの到着便による無症状者

3)と同様の帰国者のうち症状を訴えなかった者のうちから抽出率1%で無作為に抽出された者。

1)、3)の有症状者の質問票の回収を一次調査とし、データベースを作成した。引き続き2)、4)の群として回収されていた質問票から両地域とも1%を抽出して、データベースに加え、二次調査とした。

コレラ汚染地域、非汚染地域の別を表1に示した。州分類は、国際地理学会の分類を一部修正して用いた。滞在者の多いアジア州を東アジア、東南アジア、南アジア、中東に細分し、旧ソビエト連邦を構成していた独立国家共同体(CIS)は滞在者が少ないためヨーロッパに含めた。また、ここで示すコレラ汚染地域とはWHOが発行しているWeekly Epidemiological Reportでコレラの常在が認められる地域及び、Weekly Epidemiological Reportではコレラが常在している国とは記載されていないが、関西空港においてコレラ汚染地域に準じて質問票調査が通常業務として実施されている国で、主に南アジア、東南アジア、アフリカ、南米州に属する国である。コレラ非汚染地域とはコレラの常在が認められる地域以外の地域であり、主に中東、東アジア、ヨーロッパ、オセアニア、北米に属する国である。

本文中のコレラ汚染地域・非汚染地域別の集計においては、それぞれコレラ汚染地域からの航空機で

入国した者、コレラ非汚染地域からの航空機で入国した者を意味している。このため、コレラ非汚染地域からの航空機で入国した者であっても、入国前3週間の期間中にコレラ汚染地域に属する国に滞在している場合がある。逆にコレラ汚染地域から航空機で入国した者であってもコレラ非汚染地域に滞在している場合がある。例えば、非汚染地域に存在するハブ空港で乗り換えた乗客の場合は、滞在国に関わらず非汚染地域からの入国者として扱われる。

調査票

コレラ汚染地域からの航空便の乗客に対して通常業務として配布回収されている質問票を用いた。質問票には、到着年月日、航空便名、氏名、性、年齢、日本における連絡先、国籍、過去3週間の滞在国及び過去2週間の症状を記載するようになっている。症状は、下痢、腹痛、嘔吐、発熱、頭痛、咽頭痛、発疹、黄疸、激しい咳、呼吸困難、異常な出血、けいれんの12症状、及びその他の症状の有無を記載するようになっている。質問票を巻末の別紙1に示す。

解析方法

1) データベースの作成

回収された質問票から、性、年齢、汚染地域・非汚染地域の別、国籍、過去2週間の滞在国、質問票の各症状の有無をデータベース化した。

2) 有症状者割合、各症状訴え割合の推定

入国時に何らかの症状を有する者の頻度、特定の症状を有する者の頻度を有症状者割合とし、性別、年齢階級別、入国前に滞在していた国別、州別に推定した。また、各症状それぞれについて訴えた者の頻度を症状訴え割合とし同様に推定した。更に、WHOが提唱している症候群による届け出に対応して、質問票における特定症状の組み合わせに注目し、症候群訴え者割合として同様に推定した。なお、以上の全ての項目について、コレラ汚染地と非汚染地では対象者の選定方法が異なるため、以下に示す方法で帰国者数及び有症状者割合を推定した。

①コレラ汚染地域

乗り換えのために関西空港を利用した者を除き、有症状者は全数把握できたものとした。無症状者については総数は把握できているが、性、年齢階級、滞在国等が把握できていないため、無症状者群から1%を抽出し、性別、年齢階級別、滞在国別等の人数を推定した。また、有症状者と無症状者を合計し、全入国者数とし、入国者に対する有症状者の割合を推定した。各症状別の訴え率も同様に、各症状を訴えた者の全入国者に対する割合を算出した。

②非汚染地域

非汚染地域からの到着便の全帰国者の11.4%が回収できたため、有症状者についても全入国者の11.4%の抽出ができていないとして解析を行った。無症状者は更に1%抽出標本であるので、全入国者からの抽出率は0.114%としてコレラ汚染地域と同様の方法で有症状者の割合、各症状別の訴え率を推定した。

表1 国別地域分類一覧¹⁾

州	国名	地域	州	国名	地域	州	国名	地域	州	国名	地域	州	国名	地域
CIS	ウクライナ共和国	非汚染地域	アフリカ	南アフリカ共和国	非汚染地域	中東	トルコ	非汚染地域	南米	ブラジル	汚染地域	北米	アメリカ合衆国	非汚染地域
	ロシア	非汚染地域		エジプト	非汚染地域		サウジアラビア	非汚染地域		ペルー	汚染地域		メキシコ	非汚染地域
ヨーロッパ	モルドバ共和国	非汚染地域	オセアニア	ジンバブエ	汚染地域	東南アジア	アラブ首長国連邦	非汚染地域	東南アジア	インドネシア	汚染地域	東南アジア	タイ	準汚染地域 ²⁾
	アゼルバイジャン共和国	非汚染地域		ケニア	汚染地域		フィリピン	汚染地域		イラン	汚染地域		マカオ	非汚染地域
ヨーロッパ	イギリス	非汚染地域	オセアニア	ケニア	汚染地域	東南アジア	イラン	汚染地域	東南アジア	マカオ	非汚染地域	東南アジア	タイ	準汚染地域 ²⁾
	フランス	非汚染地域		モロッコ	非汚染地域		イラン	汚染地域		イラン	汚染地域		マカオ	非汚染地域
ヨーロッパ	イタリア	非汚染地域	オセアニア	ナミビア	非汚染地域	東南アジア	イスラエル	非汚染地域	東南アジア	インドネシア	汚染地域	東南アジア	タイ	準汚染地域 ²⁾
	ドイツ	非汚染地域		ルワンダ	汚染地域		イスラエル	非汚染地域		イスラエル	非汚染地域		インドネシア	汚染地域
ヨーロッパ	スペイン	非汚染地域	オセアニア	アルジェリア	非汚染地域	東南アジア	レバノン	非汚染地域	東南アジア	パレスチナ	非汚染地域	東南アジア	シリア	非汚染地域
	スイス	非汚染地域		リビア	非汚染地域		パレスチナ	非汚染地域		シリア	非汚染地域		パレスチナ	非汚染地域
ヨーロッパ	オランダ	非汚染地域	オセアニア	エチオピア	非汚染地域	東南アジア	オマーン	非汚染地域	東南アジア	イエメン共和国	非汚染地域	東南アジア	イエメン共和国	非汚染地域
	ベルギー	非汚染地域		コートジボワール	汚染地域		イエメン共和国	非汚染地域		イエメン共和国	非汚染地域		イエメン共和国	非汚染地域
ヨーロッパ	ギリシャ	非汚染地域	オセアニア	ザンビア	汚染地域	東南アジア	ヨルダン	非汚染地域	東南アジア	ヨルダン	非汚染地域	東南アジア	クウェート	非汚染地域
	ポルトガル	非汚染地域		モザンビーク	汚染地域		ヨルダン	非汚染地域		クウェート	非汚染地域		ヨルダン	非汚染地域
ヨーロッパ	オーストラリア	非汚染地域	オセアニア	カメルーン	汚染地域	東南アジア	クウェート	非汚染地域	東南アジア	香港	非汚染地域	東南アジア	中国	非汚染地域
	スウェーデン	非汚染地域		ウガンダ	汚染地域		クウェート	非汚染地域		中国	非汚染地域		中国	非汚染地域
ヨーロッパ	チェコ共和国	非汚染地域	オセアニア	アンゴラ	汚染地域	東南アジア	中国	非汚染地域	東南アジア	韓国	非汚染地域	東南アジア	台湾	非汚染地域
	フィンランド	非汚染地域		ガーナ	汚染地域		中国	非汚染地域		台湾	非汚染地域		台湾	非汚染地域
ヨーロッパ	デンマーク	非汚染地域	オセアニア	レソト王国	非汚染地域	東南アジア	マカオ	非汚染地域	東南アジア	タイ	準汚染地域 ²⁾	東南アジア	シンガポール	非汚染地域
	ノルウェー	非汚染地域		チュニジア	非汚染地域		タイ	準汚染地域 ²⁾		シンガポール	非汚染地域		タイ	準汚染地域 ²⁾
ヨーロッパ	ハンガリー	非汚染地域	オセアニア	タンザニア	汚染地域	東南アジア	タイ	準汚染地域 ²⁾	東南アジア	フィリピン	汚染地域	東南アジア	マレーシア	汚染地域
	マルタ共和国	非汚染地域		ニジェール	汚染地域		フィリピン	汚染地域		マレーシア	汚染地域		フィリピン	汚染地域
ヨーロッパ	ポーランド	非汚染地域	オセアニア	マダガスカル	汚染地域	東南アジア	インドネシア	準汚染地域 ²⁾	東南アジア	インドネシア	準汚染地域 ²⁾	東南アジア	ベトナム	汚染地域
	ルーマニア	非汚染地域		ナイジエリア	汚染地域		インドネシア	準汚染地域 ²⁾		ベトナム	汚染地域		インドネシア	準汚染地域 ²⁾
ヨーロッパ	アイルランド	非汚染地域	オセアニア	ブルキナファソ	汚染地域	東南アジア	ミャンマー	汚染地域	東南アジア	カンボジア	汚染地域	東南アジア	ブルネイ	汚染地域
	ルクセンブルク	非汚染地域		モーリシヤス	非汚染地域		カンボジア	汚染地域		ブルネイ	汚染地域		カンボジア	汚染地域
ヨーロッパ	クロアチア	非汚染地域	オセアニア	マラウイ	汚染地域	東南アジア	ラオス	汚染地域	東南アジア	ラオス	汚染地域	東南アジア	インド	汚染地域
	キプロス	非汚染地域		マリ共和国	汚染地域		ラオス	汚染地域		インド	汚染地域		ラオス	汚染地域
ヨーロッパ	リヒテンシュタイン公国	非汚染地域	オセアニア	オーストラリア	非汚染地域	東南アジア	ネパール	準汚染地域 ²⁾	東南アジア	ネパール	準汚染地域 ²⁾	東南アジア	モルディブ	汚染地域
	エストニア	非汚染地域		ニュージーランド	非汚染地域		モルディブ	汚染地域		モルディブ	汚染地域		スリランカ	非汚染地域
ヨーロッパ	モナコ	非汚染地域	オセアニア	サイパン	非汚染地域	東南アジア	スリランカ	非汚染地域	東南アジア	スリランカ	非汚染地域	東南アジア	バキスタン	非汚染地域
	バチカン市国	非汚染地域		グアム	非汚染地域		バキスタン	非汚染地域		バングラデシュ	準汚染地域 ²⁾		バキスタン	非汚染地域

1) 質問票により、滞在者のいなかった国は除外した。
 2) Weekly Epidemiological Reportではコレラ汚染地域との報告がないが、この報告書では汚染地域として扱った国。